

## 新しい課題と多様な方法を探って — 第35回総会を終えて —

第35回社会医学研究会総会  
企画運営委員会 代表委員 千田忠男

第35回社会医学研究会総会は、みなさまのご協力により成功のうちに終了いたしました。心から御礼申し上げます。

総会では、記念講演と特別講演、三本のシンポジウム、38題の演題発表、三つの自由集會が行なわれました。また、参加受付者数は296名で、うち会員は152名、非会員は144名でした。五会場で二日間にわたり、力のこもったご発表と熱心な討論が行なわれ、盛会でした。

『健康権・生存権と憲法の理念～その現実と国民の課題』をメインテーマにしてすすめられましたが、ここにみられるように、社会医学研究の課題をより広くさらに深く明らかにすることに重点がおかれた総会でした。それを反映し、学校保健や、福祉と医療の領域など、これまでに社会医学研究会で取り上げられることの比較的少なかった領域の課題をはじめ、多くの領域で新しい課題を社会医学の研究テーマとし

て取り上げる意義が示されたと考えられます。他方、その方法については、それらの課題にふさわしい多様な道筋が模索されつつも、これからいっそう論議され、吟味されなければならない状況であろうとも考えられました。

企画運営委員会のまとめの一つとして、総会準備活動はとてもし勉強になった、地方例会のような形式で協力しあって研究会活動を継続したい、という意見が出されました。この熱意を生かしているよう工夫したいと思います。

今回の総会は、全国の会員のみなさまの有形無形のご支援と、座長を勤めていただいたみなさまのご努力、企画運営委員のみなさまのご奮闘などによってすすめられました。各位にあらためて御礼申し上げます。

次回の東京総会で再会できれば幸いです。

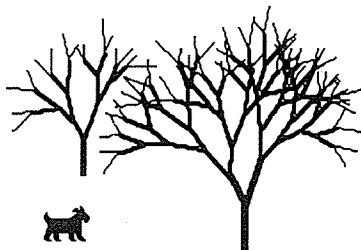
### 訃報

#### 庄司 光 先生 逝く

社会医学研究会の創立時メンバーであられる庄司光先生が去る11月23日腎不全のため逝去されました。享年89歳。

大気、水質汚染、騒音など、「公害」分野で数多くの業績を残し、労働衛生や公害行政に指導的役割を果たされました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



# 第35回社会医学研究会総会

## 座長のまとめ（1）

### 一般演題

#### －「医療福祉」関連演題－

座長 佛教大学社会学部 植田 章  
全国手話通訳問題研究会 小出 新一

#### 1-01. 聴覚障害をもつ「高齢」者の生存権と医療

大矢 暹（聴覚言語障害者総合福祉施設 いこいの村）

#### 1-02. 病院との連携で聴覚言語障害者医療と福祉を創る～難病（SLE）を持っている入所者の暮らしと、ニーズに応じる医療実践～

福井 高子（聴覚言語障害者総合福祉施設 いこいの村）

#### 1-03. 聴覚障害者外来の実情と課題

石神 博行（琵琶湖病院）

「聴覚障害をもつ『高齢』者の生存権と医療」は、梅の木寮に入所している聴覚言語障害者の健康実態、とりわけ、開所後2年間で7名が生命を絶たれたり、病院からの直接の入所にもかかわらず、入所後の検診により末期癌と診断されるなど、必要な医療保障がなされていない実態が浮き彫りにされた。こうした問題を生み出す背景には、自覚症状を的確に表現できない、いや、表現するための衛生・健康教育を受ける機会が奪われてきたことに要因がある。「教育を奪うことは、生きる力を育て高める事を困難にする。教育からの除外は、人と人との豊かな交流を妨げ、結果として結婚や家庭を築くことを困難」にしている。このことは、入所者の43.2%が不就学であるという事実からも伺える。梅の木寮の実践は、こうした「負の遺産」を抱えつつも、労働・学び・暮らしを軸に人間らしい生活の営みを保障するための取り組みが展開されている。

「病院との連携で聴覚言語障害者医療と福祉を創る」は、SLEをもつ入所者に対して、本人の望む寮での生活を送れるようにするための援助を協力病院との連携によって展開している。医師が

常駐していない福祉施設にとっては、緊急時の入院確保は福祉施設での継続した生活を送っていく上での条件のひとつである。また、入院時コミュニケーションがはかれないことからくる不安や緊張を緩和するため、施設労働者が頻回に病棟訪問し、精神的・心理的援助を行なっている。何よりも、施設労働者の働きかけによって、医療スタッフの聴覚言語障害への科学的認識の深まりと、医療チーム全体としての思想にまで高めたことにある。この事例を特殊な事例に終わらせないために、普遍化すべき課題を導きだすこと。入所者の「処遇」の問題とあわせて、福祉労働者の労働条件の問題も検討していかなければならないことを示している。つまり、身体障害者施設等とは異なった聴覚言語障害者施設に働く福祉労働者の労働負担の問題も軽視できないからである。

「聴覚障害者外来の実情と課題」は、「きこえない」人たちへの医療を確実に保障していくために、どういった専門性が必要とされるのかを、聴覚言語障害者の専門外来を開設してきた経緯を通して明らかにしている。ひとつの病院のふんばりだけでは解決しない、聴覚言語障害者の受療権保障の問題を地域の医療機関の中でどのように広げていくのが今後の課題としてある。

三報告は、聴覚言語障害者の生命と健康を守り発達を保障することは、医療の中に民主主義をどう貫くのかという問題であることを本質的には提起しているように思う。

（文責 植田 章）

#### －「学校保健」関連演題－

座長 立命館大産業社会学部 三浦 正行  
城陽市立南城陽中学校 片山 ヒロ

#### 2-04. 学校でみられた運動濫用

（Exercise Abuse）

田口 久夫（「学校」と子どもの健康・発達研究会）

演者は、学校医、開業医として子どもをみていて、学校の部活動やスポーツ少年団に属する子どもたちに、スポーツ活動が原因と考えられる身体上、精神上的の障害が多発しているが、これらは、家庭での児童虐待に似ており、かつそれより数も多く、社会的にも影響は大きいとする。

参加者からも類似した実態が多く出され、運動濫用は、子どもの人権侵害ととらえることや、教師の労働条件の問題、また労働災害やその再発防止ができていない今の社会問題でもある、ととらえていく方向も出された。

(文責 片山 ヒロ)

## 2-05. 中学校における部活動の諸問題

片山 容子 (「学校」と子どもの健康・  
発達研究会)

演者は、最近の中学校の部活動における、スポーツ障害・外傷の発生状況と、部活動顧問について調査をした。その結果、長時間の部活動が、中学生のスポーツ障害・外傷の一因と考えられるとともに、生活リズムの変調から、新たな健康障害をひきおこしており、これは中学生も顧問も同じであると指摘している。参加者からも、部活動を社会体育にせず、学校がかかえこんでいる問題、部活動が教育課程に位置付けられているため、科学的指導がしにくくなっているにもかかわらず、他者の関与を許さない面もあること、学校災害は「子どもがドンクサイ」とかたづけられ、指導方法、内容の検討には結びつかない傾向等が出された。今後の課題として、部活動の本来の性格「自主的、自治的活動」を取り戻し、生徒の体力や発達にみあった活動方法を導入するとともに、運動の楽しさを知らない大人が多い中、社会問題としても検討していく必要があることも出された。

(文責 片山 ヒロ)

座長 大妻女子大学 相磯 富士雄  
京都市立修学院小学校 永井 節子

## 2-06. 自律神経失調傾向と生活リズム実態調査から見る今の子どもたち

須藤 朋子 (東京民研学校保健部会)

## 2-07. 子どもの生活構造の今日的特徴について —新しい教育指導の方法を探る—

築山 崇 (京都府立女子短大部)

学校保健関係の分科会は、例年の社会医学研究会と、その雰囲気がちがっていた。今まであまり参加したことがなかった養護教諭が中心になり、数人の学校医も参加し議論が沸騰した。私は強いインパクトを受けた。

私の担当した2題の研究報告は、学校の中でのみの狭い保健問題ではなく、「子どもの生活および環境の変化と子どもの健康問題」という、子どもの健康にかかわる社会医学的、また保健社会学的な課題である。

「自律神経失調傾向と生活リズム実態調査から見る今の子どもたち」は、東京民研学校保健部会での数年にわたる学習と調査の結果を今年の6月教研に報告したものの要約である。日本体育大学の正木らとともに1979年に行なった、日本の子どもたちの健康状態の変化とその背景になる子どもたちの生活様式の変化とその関連についての実態調査の取り組みの延長上のものである。

小児の起立性調節障害「OD」とその生活習慣やライフスタイルとの関連に関する研究は、すでにいくつか報告されている。そのような研究報告を学習し、日々接している子どもたちの健康状態や動作の身のこなしについて観察し、また、最近の子どもたちの生活習慣についての調査をし、さらに、養護教諭の目を通しての事例を検討、研究し、東京民研学校保健部会としてまとめたものである。まとめかたが粗かったが、来年の社会医学研究会での発表に期待できる報告であった。

次の報告は、築山崇による「子どもの生活構造の今日的特徴について」である。本報告は、前報告の身体状況の背景になる生活構造についての調査研究である。

本調査は、生活の社会化(商品化)を分析の視点にしている。全体的特徴としては、1)生活時間の夜型化、2)テレビの長時間視聴、3)生活リズムと価値観の相関、4)進路選択とコミュニケーション、5)同調指向、からまとめている。とくに3)の生活リズムの背景について、なかでも、生活の夜型化に象徴される生活構造について論じられた。

－「労働衛生」関連演題－

生活の夜型化の中でみられる子どもたちの生活のゆがみの背景、要因は、親達の多忙、ゆとりのなさなどのために、現代の商品文化に対抗しうるだけの家庭の独自の文化（直接的、人間的交流）をつくれないうことではないかとした。一方、これに対して、個別事例をつきあわせるなどの検討、また状況説明だけでなく教育が依拠しうる積極面についても述べてほしいなどの意見が出された。

（文責 相磯 富士雄）

座長 東海大学体育学部 阿部 眞雄  
京都市立洛北中学校 久保田 あや子  
2-08. S市児童・生徒の学校医健診について  
竹内治一（摂津市医師会）

S市での学校健診の実態報告では、アトピー、小児成人病傾向の増加など、子供の健康問題は明らかになっている。しかしその対策がなされず問題の解決を遅らせている、との指摘がされた。検査項目とその意義についていくつかの意見交換があった。

（文責 久保田 あや子）

2-09. 子どもの健康・発達を考える健康診断の方向について  
佐久間美幸（広島市袋町小）

文部省による学校健康診断の見直し「改正」方向に対して、養護教諭から、「手抜き健診」が危惧されるという報告があった。

それに対して、労働衛生学の研究者、医師などから、色覚検査の人権上の問題、視力検査の方法、事後処置、プライバシーなどで現行の「学校健診」の「批判」が出された。教育学者、養護教諭などからも発言が相次ぎ、関心の強さを示していた。これまで社医研の中で子ども・学校の問題について十分議論がされてきたとはいえ、一般論の議論が多かった。初参加の養護教諭から、さまざまな分野の意見が出され新鮮に感じた、という感想が聞かれた。今後、「学校・教育」の企画が引き続き運営され、学校現場の目的と意義、健康の具体的事実に基づいた報告、子どもの人権、健康保障などについて、報告と議論が行われることを期待したい。文部省は、教職員の健診、就学時健診について見直しをすとしており、その動向を注意深く見ていく必要がある。

（文責 久保田 あや子）

座長 大阪府立公衆衛生研究所 平田 衛  
4-03. 小企業検診における缶入り飲料摂取の実態

稲垣 孝子（江東区城東保健所）

演者らは、江東区が行なっている小企業検診を実施した企業のうち、缶入りコーヒーやジュースの摂取が多かった5社について聞き取り調査を行なった。摂取は若年層に多い一方、中高年以上に異常所見が多く、現時点では影響は見いだされなかった。演者らは、狭く乱雑な作業場で給湯設備の設置困難、使い捨て容器の容易さ、発汗による水分補給などが背景にあること、この習慣を続ければ若年者が将来成人病になる可能性が高いことを指摘した。残業食との代替の可能性、朝食抜きとの関連についてなどの質問があり、缶入り飲料に代わる適切な対策を提起する必要があること、大阪市の愛隣地区の調査では最大5本の摂取が見られたとのコメントがあった。

（文責 平田 衛）

4-04. 学校給食調理職場の職場巡視結果について

阿部 眞雄（東海大学体育学部）

演者らは、小学校給食調理員における労働衛生上の問題のうち、手指－前腕－上腕系の負担になる動作を、単独校2校、センター2ヶ所の各1名について検討した。調理員の把握動作は、カゴ、パケツ、調理器具なども把持部の形から、重いものを持つときでも、主に指先を使い手掌を補助的役割にしか用いない把握動作を行っていた。器具の改善、教育などの対策により大幅な改善が予想された。作業環境として快適さからみた評価についての質問、腰痛の問題など改善事例についてコメントがあった。

（文責 平田 衛）

## 自由集会「学校・教育をめぐる」 に参加して

山本 万喜雄

(愛媛大学教育学部)

「社会医学研究レター」の前号 (Vol.4 No.1,2 合併号) で触れられているように、社医研で初めて企画された学校保健領域の自由集会は、京都の養護教諭たちの献身的な活動によって熱気あふれる集いとなりました。参加者は50人、報告者が14人。この数字一つとっても、そのエネルギーの大きさがわかります。

集会では、世話人の三浦氏による経過報告を受けた後、そのテーマ「子どもを健康の権利主体に！」を深める報告が続きました。トップは、子どもの権利条約における健康問題の位置を明らかにしようとした築山報告。それを受けて、小学校、中学校、高校、養護学校の現場からの報告。その状況は、要約すれば「多忙と過労」のオン・パレードでありました。こんな職場に誰がしたか。私憤はいつしか公憤に変わり、脳梗塞で教卓の上に倒れた女教師(43才)のケースの報告には言葉を失ってしまった参加者たち。もし具体的な対策がとられなかったら、犠牲者はさらに増えることでしょう。教職員の労働安全意識が問われるとともに、子どもたちへの健康認識の育成が課題となりました。

後半の報告は、難病団体連絡会、学校医、保健婦、医師らが次々と発言。そこでも、子どもらの環境が激変していること。にもかかわらず文部省の政策は無きに等しいことが問題提起されました。その一方で、城陽市における保健婦と養護教諭との共同の努力、愛媛における子育て学習会の成果など、子どものいのちを守る実践も報告されました。が、時間不足のため、それを深めることが出来ずに終わったのは残念！

終わりに、渡部氏の総括的な発言で指摘されたように、この強力なエネルギーが来年の東京集会に引き継がれ、「学校・教育・健康」の諸課題が社会医学の観点からゆとりをもって、さらに深く討論されるよう期待しております。京都の熱きパワーに感謝致します。ありがとうございました。

## 社会医学研究会

### 第35回総会記録

#### 議案1. 事業報告

- 1) 第34回総会を開催した(7月24,25日、担当朝倉世話人)。
- 2) 世話人会を2回開催した(10月21日、5月21日)。
- 3) 会員状況  
今期入会は51名、退会は12名で、現会員は560名、うち名誉会員12名である。  
会費5年以上の未納者については、本人に通知の上、退会手続きを進めることとした。
- 4) 「社会医学研究」の発行について  
第12号を発行した。
- 5) 「社医研レター」の発行について  
Vol. 3, No. 3 (93年10月), No. 4 (94年2月)、Vol. 4, No. 1/2 (94年7月)を発行した。
- 6) 第36回総会について

#### 議案2. 決算報告

1993.7~1994.6期決算について審議し、別記のとおり承認された。

#### 議案3. 1994-95年期事業計画

- 1) 第36回総会を、1995年7月22,23日、東京・国立公衆衛生院で開催すること(担当:上畑世話人)が承認された。
- 2) 機関誌「社会医学研究」第13号、第14号を発行することが承認された。
- 3) 「社医研レター」の発行については、事務局移転問題もあるので、継続する方向で努力することとされた。

#### 議案4. 1994-95年期予算

別記の通り承認された。

#### 議案5. その他

- 1) 事務局移転について  
渡部代表世話人より、定年退職を考慮して事務局移転の提案があったが、移転先未定のため当分、現状のまま会務を継続することにした。
- 2) 名誉会員の推薦について  
山本裕子(関東)、小栗史朗、前田黎生(以上東海)、朝倉新太郎、丸山創、吉田克巳(以上近畿)の6会員を名誉会員に推薦した。

## 1993年度決算及び1994年度予算について

＜1993年度 決算＞

### 一般会計収入

項目	予算	決算
繰越	42,295	42,295
会費	1,467,900	1,246,000
雑収入		5,536
合計	1,510,195	1,293,831

### 一般会計支出

項目	予算	決算
第35回総会補助金	350,000	350,000
通信費	131,000	198,736
事務費	150,000	151,909
世話人会費	30,000	0
機関誌会計へ繰入	750,000	550,000
予備費	99,195	5,150
合計	1,510,195	1,255,795

(差引残高：38,036円)

＜1994年度 予算＞

### 一般会計収入

項目	予算	備考
92年度会計より繰入	38,036	
会費	1,623,750	
合計	1,661,786	

### 一般会計支出

項目	予算	備考
総会補助金	450,000	36回総会事務局へ
通信費	165,000	郵送代等
事務費	350,000	事務用品、コピー 事務補助賃金等
世話人会費	30,000	会場費等
機関誌会計へ繰入	600,000	14号発行経費
予備費	66,786	
合計	1,661,786	

### 機関誌会計収入

項目	予算	決算
繰越	1,115,707	1,115,707
93-94期一般会計より	750,000	550,000
雑誌販売	40,000	9,060
雑収入		9,308
合計	1,905,707	1,684,075

### 機関誌会計収入

項目	予算	備考
93-94期会計より繰入	1,648,545	12,13号発行経費等
一般会計より繰入	600,000	14号発行経費
雑誌販売	10,000	
合計	2,258,545	

### 機関誌会計支出

項目	予算	決算
機関誌12号発行費	740,000	0
機関誌13号発行費	740,000	0
郵送費	270,000	5,530
予備費	125,707	30,000
合計	1,875,707	35,530

### 機関誌会計支出

項目	予算	備考
12号発行費	500,000	12号印刷費
13号発行費	500,000	13号印刷費
14号発行経費	550,000	14号印刷費
郵送費	150,000	会誌発送費等
抄録購入	30,000	35回総会抄録買取
予備費	528,545	
合計	2,258,545	

(差引残高：1,648,545円)